地域と連携し原宿表参道のケヤキ並木を次世代に継承

１．表参道ケヤキ並木の概要

原宿表参道の象徴として街並景観をけん引してきたケヤキ並木（写真－１）は、全長約1,000m（図－１）、ケヤキ本数159本、樹高15～20mに及ぶ。

明治神宮創建の翌年である 1921 年に初めてケヤキが植栽され、約 100 年が経過。当初 201 本が植栽されたが、戦時中の空襲により 13 本を残して焼失し、1949～1951 年に地元造園会社が中心となって復植され、現在の姿に至っている。



写真－１　表参道全景

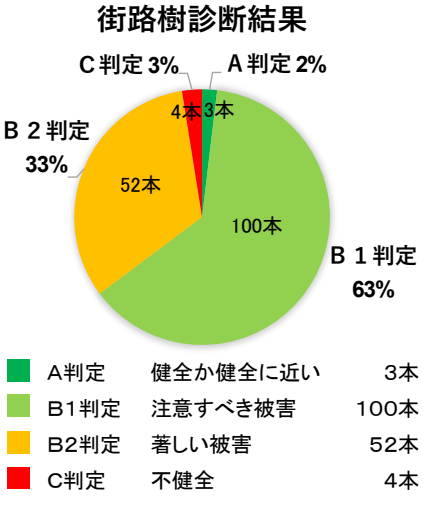
また、この表参道は、他のケヤキ並木整備の先鞭となるなど、その後の街路整備事業に与えた功績が非常に大きいことが称えられ、2020 年には選奨土木遺産に認定された。



図－１　表参道ケヤキ並木平面図

２．現状の課題

長年に渡る成長と環境変化に伴って、深刻な課題に直面している。ケヤキは大径木化し幹回り 200 ㎝以上のものは全体の約３分の１に及ぶ。これに応じて根も成長し、歩道面を盛り上げて不陸を生じさせるなど歩行者の通行に懸念が生じている。また、樹齢 70 年を超える樹木が大半を占め、樹勢低下や活力の衰えにより樹皮の剥がれやキノコの発生などの症状が見られる。さらに、枯枝や衰弱枝によって落枝が発生し、物損被害や第三者被害が増加の傾向にある。



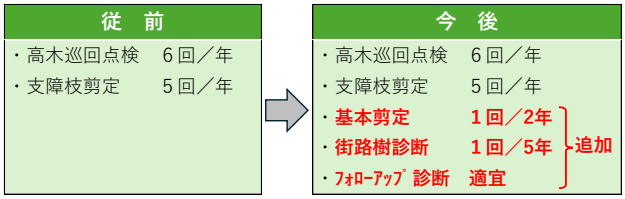
図－２　街路樹診断結果

このような現状の中、令和５年度に街路樹診断を実施した。その結果、Ａ～Ｃ判定の４段階評価において、速やかな対策を必要とするＢ２判定「著しい被害」及びＣ判定「不健全」の合計は、全体の約３分の１に及んだ（図－２）。このままでは、さらなる落枝の発生や突然の倒木など、重大な事故を引き起こす可能性が極めて高く、また、将来的に良好な並木としての持続が難しい。

３．対策の検討

これらの課題を踏まえ、100 年先も持続可能で安全安心なケヤキ並木の創出のため、次の対策を検討した。

１つ目は、維持管理方法の改善である。これまで実施してきた高木巡回点検及び支障枝剪定に加え、落枝の抑制や樹形の形成ができる「基本剪定」を２年に１回行い、また、樹木状態を的確に把握するため、「街路樹診断」及び「フォローアップ診断」を定期に行うとした（図－３）。



図－３　維持管理方法の改善

	2025（R7）	2026（R8）	2027（R9）	2028（R10）	2029（R11）
	1年目	2年目	3年目	4年目	5年目
伐　採	４本 L55,L66 R50,R63	４本 L44,L70 R37,R69	５本 L11,L49,L58 R04,R59	５本 L15,R31,R33 R77,R47	５本 L03,L76,R13 R15,R51
補　植			４本 L55,L66 R50,R63	４本 L44,L70 R37,R69	５本 L11,L49,L58 R04,R59
基本剪定		○		○	
診　断				○ （街路樹診断）	○ （ﾌｫﾛｰｱｯﾌﾟ診断）

表－１　ケヤキの更新計画

２つ目は、ケヤキの更新計画である。ケヤキ並木の価値を守り良質な資産を次世代に継承していくためには、100 年先を見据えた更新が不可欠である。全体が概ね 30～40 年間で更新できるよう、年間４～５本程度で更新していく計画を作成した（表－１）。また、診断結果に基づき、不健全なものから優先して更新していくとともに、並木の景観を配慮しながら更新する樹木を選定する。

４．地元と連携した更新計画の策定

令和７年度、東京都及び地域住民が相互に協力し、将来にわたり安全かつ健全なケヤキ並木を存続させるため、地元の商店街振興組合、町会、まちづくり協議会、学識経験者、地元造園会社及び地元自治体で構成した「原宿表参道ケヤキ並木連絡会」を立上げ、同年に第一回連絡会を開催した（写真－２）。この連絡会において、都側から、前述の維持管理方法やケヤキの更新計画に加え、より地元の皆様に理解や関心を深めていただく工夫として、「遺伝子の継承」や「伐採木の有効活用」等の取り組みも盛り込んだ、「原宿表参道ケヤキ並木更新計画」（図－４）を策定し、連絡会で提案した。遺伝子の継承とは、更新樹木は外部から持ち込まず、現地の歴史あるケヤキの遺伝子から接ぎ木等の方法を用いて苗木を作り出し、街路樹となるまで成長させて植栽することである。また、伐採木の有効活用とは、通常は再資源化施設等へ搬出される伐採木を、木工品の材料として利用できるよう地域の皆様へ還元して有効活用を図っていくことである。



写真－２　連絡会開催の様子



図－４　更新計画

連絡会での審議の結果、本計画について全委員の承認が得られ、新たな一歩を踏み出すことができた。

５．100 年先も良好であり続けるために

表参道に初めてケヤキが植栽されてから約 100 年が経過した。地域の皆様から愛され続け、表参道のシンボルとして街とともに成長してきた。これから 100 年先も良好なケヤキ並木であり続けるために、また、東京都として誇れるケヤキ並木であり続けるために、地元の皆様とともに守り続けていきたい。



写真－３　夜のイルミネーション